

## 千葉県における自動車運転評価の現状

菊地尚久\*

### Current status of automobile driving evaluation in Chiba Prefecture Naohisa Kikuchi\*

\*千葉県千葉リハビリテーションセンター [〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町 1-45-2]

\*Chiba Rehabilitation Center

自動車運転評価は本学会の重要なテーマの一つであるが、我が千葉県は東京都や福岡県と並んで、先進的な試みを長年続けてきた<sup>1)</sup>。本学会員に巻頭言として我々の取り組みを紹介させていただきたいと思う。

当センターが実車評価を始めたのは2009年である。高次脳機能障害支援普及事業のプロジェクトとして運転再開支援の活動を開始した。本プロジェクトでの運転再開支援はリハビリテーション科医、眼科医、作業療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、視能訓練士が評価システム構築に参加し、入院患者に対する運転再開評価を開始した。さらに外来にて退院患者への評価を行い、試行錯誤しながら評価システムを構築してきた。当センターの自動車運転評価は以下の流れで行っている。医師の診察として自動車運転の希望、運転の必要性について患者家族と相談する。高次脳機能のスクリーニング検査としてMMSEを施行する。その後一次評価として、J-SDSA、CAT、TMT-J、WAIS-IV、WMS-R、失語症に対するSLTAなどの検査を施行する。眼科で視野障害等のチェックを行う。ドライビングシュミレーターでの適性検査を行う。医師の診察で評価結果の報告を行い、二次評価に進めるか、二次評価でのポイントを明らかにする。二次評価は自動車運転教習所でOT同席の下、教習所の教官と実車評価（構内および公道）を行う。その報告を基に医師が最終的な判断を行って、公安委員会からの診断書を作成する<sup>2)</sup>。

当センター外来での自動車運転評価に関する対象者数の増加とともに、紹介元との連携の在り方を検討する必要性が生じたため、まず当センターへ紹介が多い3病院との連携を図り、2019年3月に「千葉県脳損傷

者運転支援連携会議」を立ち上げた。そのうえで千葉県内の病院として統一を図り、意見を集約したうえで、公安委員会との連携を図り、診断書の内容や脳損傷者に対する対応に関する相談を開始した。公安委員会とのコミュニケーションとして、定期的に合同研修会を開催している。また回復期リハビリテーション病棟を持つ病院と連携して実車評価できる教習所を拡大することも行っている。千葉県脳損傷者運転支援連携会議での活動は年に4回の定例会議、診断書式の改訂に関する相談、患者・家族向けのパンフレットの作成などである。定例会議では各医療機関の自動車運転評価の取り組み、公安委員会に対する意見、質問の取りまとめ、千葉県指定自動車教習所協会訪問の報告、運転支援情報共有シートの活用等を行い、年に1回千葉運転免許センターの方にも会議に参加していただき、運転に関する講義や、医療機関のスタッフと対面でのディスカッションを行っている。本会議での公安委員会との検討の1例として診断書の様式変更がある。2022年10月3日から千葉県内で「脳卒中等に係る診断書新様式」の運用が開始された。「脳卒中等に係る診断書様式」の主な改訂ポイントは、①二重否定の文言(例「控えるべきとは言えない」とまでは言えない)の改善、②「発作のおそれの観点から」ではなく「現時点での症状(運転能力及び改善の見込み)」に変更、③「生じている障害を○で囲んでください。【高次脳機能障害(意識障害、見当識障害、記憶障害、判断障害、注意障害):」身体麻痺等の運動障害・視覚障害(視力障害、視野障害)・その他】」の部分のア～カの上に移動する、④ア～カを選択肢の最後に「運転可、運転不可」を記載、⑤上記の改訂内容の理解のための手引きの作成である。今

回の様式改訂により，診断書がわかりやすく記載がやしずくなり，医師の負担軽減と誤解の回避が期待されている．

また本会議において評価の統一を図り，病院間の連携を効率的に行うこととデータベースを蓄積するために自動車運転共有シートを作成した．情報提供病院が記載する箇所として，疾患情報運転情報疾患管理機能・活動状況，神経心理学的検査のデータ，ドライビングシミュレータがあり，情報受取病院が記載する箇所として，情報提供病院で検査した以外の神経心理学的検査，ドライビングシミュレータ，実車評価最終結果を記載するものとなっている．

このような千葉県全体での取り組み，自動車運転教習所協会との連携，公安委員会との連携により，自動車運転評価基準の統一化を図ることができ，実車評価のあり方，診断書の内容についての検討など様々な側面で改善を図ることができた．

## 文 献

- 1) 小倉 由紀，赤荻 英理，安森 太一 他：【運転再開支援の地域連携】千葉県千葉リハビリテーションセンターにおける地域連携の取り組み（高次脳機能障害者の運転再開支援について）．日本安全運転医療学会誌 2023；3：16-25
- 2) 菊地 尚久：各都道府県における自動車運転に関する公安委員会提出用診断書の書き方 脳卒中関係 千葉県．Journal of Clinical Rehabilitation 2024；33：257-263